

巻 頭 言

大学院再編に向けて

世界最高年齢は男性が112歳、女性が117歳でありどちらも日本人です。100歳以上の人口は平成25年が4万人で平成26年は4.6万人と確実に増加しています。平均寿命はおよそ83歳です。元気寿命は、平均寿命マイナス10歳といわれています。これは、医療費から見てもよく分かります。一人当たりの1年間の医療費は、75歳までが18万円、75歳を超えると80万円です。高齢化に伴う社会保障費は毎年1兆円ずつ増えています。平成27年度の約96兆円の一般会計予算のうち、社会保障費は約3分の1を占めています。このような、高齢化や医療費の問題は、団塊の世代が10年後、75歳以上になる2025年からはさらに深刻な問題となることが容易に想像できます。これから、さらに保健・医療・福祉に対する期待と需要が膨らんでいきます。

保健・医療・福祉分野において少子高齢化と人口減少から派生する問題は大きな研究課題です。現在、我々は、学部教育を基礎として保健福祉学専攻の修士課程において、これらの研究課題に取り組んでいます。しかし、これまでに人類が経験したことがない、少子高齢化と人口減少にはこれまでに得られた知識と技術をさらに加速的に発展させる必要があります。我々はこれらの研究課題について、地域保健学・実践看護分野、総合リハビリテーション分野、ヒューマンサービス分野のそれぞれの視点から取り組むとともに、専門分野の枠を超えて俯瞰的に問題の本質を捉え解決策を見出す高度な問題解決能力を有する人材を育成する必要があります。保健福祉学専攻の3つの分野は、さらなる教育研究の発展、質の高い教育・研究者の育成を目指し、既存の修士課程を基盤に、前期・後期一貫した博士課程教育の設置を検討する必要があります。これらの実現のためには地道な研究の積み重ねが不可欠です。

県立広島大学 保健福祉学部

小 野 武 也